

主な内容

- 矢巾地区への統合について
- 血管腫センターのご紹介 等

岩手医科大学 第4回地域医療連携懇談会

診療体制再編に伴う患者サポートセンター(司令塔)の強化

- ✓ 入退院支援の強化
スタッフを増員し、多くの予定入院者への早期介入 (Patient Flow Management) を目指します。
またスムーズな急患の受け入れ、他医療機関への転院・退院調整を目指します。
- ✓ 予約体制の強化
紹介予約センター体制の継続に加え、新患や術後患者さんへの迅速な検査提供に向けた検査予約体制の構築を目指します。
- ✓ 地域の医療機関との連携強化
特に画像検査については当院のキャパシティを超える可能性もあるため、近隣の医療機関様と連携を回りながら機器の活用を行う体制の構築を目指します。

Iwate Medical University Hospital News

地域医療連携だより

2025年 10月号



岩手医科大学附属病院



内丸メディカルセンター



矢巾地区への移転・統合後の附属病院、 内丸メディカルセンター、歯科医療センターについて

附属病院長 森野 禎浩

平素より当院の運営に格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

このたび、歯科、リプロダクションセンター、および総合診療科外来を除く全診療部門を矢巾附属病院へ集約する運びとなりました。これにより、診療・検査・入院機能の再構築を図り、より効率的で質の高い医療提供体制の確立を目指して、以下のとおり再編を進めております。

外来診療においては、既存の 89 ブースに加え 30 ブースを増設し、化学療法室は病棟内へ移設いたします。また、午前・午後を通じた診療運用により、外来キャパシティの最大化を図ります。ただし、構造上の制約もあるため、比較的病状が安定している患者さんの継続的なフォローアップについては、地域の医療機関の先生方にご協力をお願い申し上げます。当院では、引き続き初診や専門性の高い診療や救急医療に注力し、特定機能病院としての使命を全うしてまいります。

検査体制につきましても見直しを進めており、内丸メディカルセンターに設置されていた MRI 装置 1 台および超音波機器を矢巾附属病院へ移設いたします。放射線・検体検査などの大型機器は既存の矢巾設備を活用し、シミュレーション上は従来の検査需要をおおむねカバーできる見込みです。特に MRI や CT による経過観察については、近隣医療機関との連携を一層強化し、撮像依頼の体制を整備中です。あわせて、新患や術後患者さんへの迅速な検査提供に向け、検査予約支援システムの導入も予定しております。

患者さんのご紹介については、従来どおり電話・FAX・WEBにて矢巾での受付・対応を継続いたしますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

入院診療では、「筋肉質」な運営を目指して取り組みを進め、平均在院日数を 13.3 日から 10.8 日に短縮いたしました。これを受け、2025 年 10 月に病床数を 1,000 床から 950 床へ減床しました。今後も体制のスリム化と機能の最適化を進めるとともに、安定期患者さんの転院や救急一次受け入れなどを含めた「病病連携」の強化にも取り組んでまいります。

本再編に際し、関係機関の皆様には一部ご不便をおかけすることもあるかと存じますが、地域医療の持続的発展と高度化に向け、全力で取り組んでまいります。引き続き、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

内丸メディカルセンター長 下沖 収

日頃より岩手医科大学附属病院ならびに内丸メディカルセンターに格別のご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

内丸メディカルセンターは 2019 年の開院以来、大学病院の高度外来機能や短期滞在検査・手術を担う新たな地域医療の拠点として、その使命を果たしてまいりました。これまでの 6 年間で延べ 8 万 8 千件を超える患者さんをご紹介いただき、また数多くの逆紹介を通じて地域医療連携に寄与できましたのも、ひとえに先生方の温かいご理解とご協力の賜物であり、心より厚く御礼申し上げます。

特に、新型コロナウイルス感染症パンデミックという未曾有の事態に際しては、盛岡市医師会をはじめ近隣医師会の先生方と力を合わせ、地域外来検査センターの開設・運営に取り組むことができました。

た。切迫した医療ニーズに直面するなかで、共通の使命感のもと迅速かつ的確に協働できたことは、何ものにも代えがたい経験であり、「顔の見える」地域連携の力を改めて実感するとともに、今後生きる貴重な財産となりました。

既にお知らせのとおり、内丸メディカルセンターの医科診療は2026年4月から矢巾附属病院へ集約いたしますが、その後も内丸では「リプロダクションセンター」、「総合診療科」、「歯科医療センター」が診療を継続いたします。リプロダクションセンターは専門性の高い生殖医療を、総合診療科はプライマリケアから多疾患併存や複雑困難症例まで幅広く対応し、学生・若手医師の教育を担いながら矢巾附属病院への橋渡し機能も果たします。また、歯科医療センターは地域に根ざした高度口腔医療の診療・教育・研究の拠点として、さらなる充実を図ってまいります。矢巾附属病院の高度先進医療と、内丸に残る総合診療科や各センターとの役割分担が明確になることで、地域の皆様に安心して持続可能な医療を提供できる体制が整うものと考えております。地域の先生方からの患者紹介には、これまで以上にしっかりとお応えし、密接な連携のもとで役割を果たしてまいります。

これまで内丸メディカルセンターにお寄せいただいた信頼とご支援にお応えすべく、今後は新たな体制のもとで、附属病院での高度医療の提供と内丸では地域医療ニーズに対応できるよう、一層の発展を目指してまいります。どうか引き続き、患者さんのご紹介をはじめ、変わらぬご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

歯科医療センター長 山田 浩之

秋も深まり、街路樹が鮮やかに色づく季節になりました。平素よりひとかたならぬご高配を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、本学歯科医療センターでは従来より地域医療に尽力すべく、様々な医療機関との連携に努めて参りました。お陰様で毎年約3000名の患者さんをご紹介いただいております。皆様のご理解と地域連携システムの定着を実感しております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

この度、2026年4月1日より内丸メディカルセンターの医科診療科が矢巾附属病院に移転するのに伴い、歯科医療センターの診療体制も一部変更することになりましたので、お知らせいたします。臨床検査部との強い連携を要する歯科麻酔科、障がい者歯科、小児歯科、口腔外科は、全身管理部門としての役割を重視し、矢巾附属病院で新患受付をさせていただきます。多数のご紹介をいただいておりますので関係各所の皆様におかれましては、ご不便をおかけすることもあるかと存じますが、安全な診療体制の維持を目的とさせていただきますので、ご理解いただけましたら幸いです。一部の診療体制の変更はございますが、歯科診療部門は、基本的に2病院体制を維持いたします。内丸の歯科医療センターと矢巾の附属病院でそれぞれの役割を適切に分担しながら、総合的に皆様のお役に立てるよう鋭意努めてまいります。

今年は、歯科医療センターに新しいデジタル関連機器が導入されております。ソフトとハード両面から、より質の高い歯科口腔医療を皆様にお届けできるよう、職員一同研鑽を積んでいく所存です。

また、歯科医療センターには、紹介予約センターを介したFAX紹介システムがあります。患者さんの待ち時間を減らすと共に、受診場所の間違いを防ぐメリットもありますので、こちらの活用も引き続きご検討ください。

これからも、皆様に信頼してご紹介いただける医療機関を目指して充実した歯科医療を展開していきます。地域の皆様との連携から生まれる付加価値の高い良質な医療を提供できるよう努力しますので、引き続きご支援を賜りますよう、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

新任教授就任のご挨拶

内科学講座 リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野 教授 藤本 穰



2025年4月1日付けで内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野の教授に就任いたしました藤本穰と申します。当科は2021年4月に新設された診療科で、初代教授は現在岩手医科大学副学長の仲哲治先生であり、私が二代目となります。

私は大阪の出身で、1993年に大阪大学を卒業し、阪大第三内科(現呼吸器・免疫内科)に入局いたしました。内科の初期研修を終えて大学院へ入学する際、研究テーマに悩む私に声をかけてくださったのが、当時阪大第三内科でサイトカインシグナルの研究をされていた仲先生でした。これがきっかけとなり、以後30年近くに渡って仲先生の下で仕事をさせていただきましたが、この度教授職というたいへん重要なお役目を引き継ぐことになり、身の引き締まる思いです。

当科では、関節リウマチのほかに、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、ANCA関連血管炎などの全身性自己免疫疾患の診療を行っています。免疫分野の研究はここ約30年の間に劇的に発展し、ヒト疾患の病態にサイトカインが重要な役割を果たしていることが分かってきました。これを受けて、サイトカインやそのシグナルを阻害する製剤(バイオ製剤やJAK阻害剤)が次々と開発され、リウマチ・膠原病・アレルギーの診療はパラダイムシフトと呼ばれる目覚ましい進歩をみせています。当科では正確な診断をベースに、免疫という視点から患者様の病態を捉え、適切な治療薬選択によって最適な治療を行うことを心がけています。全身性疾患を診る上で欠かせない他科連携や、免疫疾患を診療科横断的に診る「臨床免疫センター」での外来活動、地域での病診連携などもさらに進めてまいり所存です。免疫が関わる病気は本当にたくさんありますが、県内の内科系リウマチ専門医はまだ不足です。日々の免疫難病の診療に加えて、若手専門医の教育・育成により、県の医療に貢献できればと考えています。どうか今後ともリウマチ・膠原病・アレルギー内科をよろしくご願いたします。

緩和医療学科 教授 木村 祐輔



このたび、2025年4月1日付をもちまして岩手医科大学医学部緩和医療学科教授を拝命いたしました木村祐輔と申します。2014年より特任教授として同学科を担当してまいりましたが、このたび改めて教授職を拝命することとなり、謹んでご挨拶申し上げます。

緩和医療学科は、がんをはじめとする生命を脅かす疾患を抱える患者・家族に対し、全人的医療を実践することを目的として設置された、全国的にも稀有な独立した学科であります。痛みなどの身体的苦痛の緩和に加え、精神的・社会的・スピリチュアルな側面にわたる包括的支援を柱とし、発症早期から終末期に至るまで切れ目のない支援を提供することを使命としております。本学附属病院におきましては、2007年に緩和ケアチームを発足させ、さらに2019年には緩和ケア病棟を開設いたしました。外来・一般病棟との緊密な連携に基づく入院治療、ならびに在宅医療との接続を重視した「シームレスな緩和ケア」を実践しており、特定機能病院においてホスピス型緩和ケア病棟を備える医療機関は全国的にも稀少であり、患者の多様な要請に応え得る体制を整えております。併せて、教育・人材育成も極めて重要な使命であり、特に看護師特定行為研修や緩和ケア認定看護師教育等を通じ、多数の修了生を輩出してまいりました。修了者は、岩手県はもとより全国の医療機関や在宅医療の現場において活躍し、地域全体のケア水準の向上に資する存在となっております。

緩和ケアは「人生をよりよく生きるための医療」であります。病とともに歩む方々が安心して療養できる社会を実現するため、今後も教育・研究・臨床を三位一体として推進し、地域医療の発展に寄与してまいり所存です。地域の皆様におかれましては、引き続き格別のご理解とご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

歯科保存学講座 歯周療法学分野 教授 佐々木 大輔



2025年4月1日より、岩手医科大学歯学部歯科保存学講座歯周療法学分野の教授を拝命いたしました、本学33期生の佐々木大輔と申します。母校で教育・研究・診療を牽引する立場を仰せつり、光栄に思うと同時に、その重責を深く感じております。

私は東京都に生まれ、中学時代から埼玉県浦和市（現さいたま市）で過ごしました。高校卒業後に本学歯学部へ進学し、在学中に受けた上野和之教授の講義をきっかけに、歯周病学の奥深さと社会的意義に強く惹かれました。卒業後は当時の歯科保存学第2講座（現・歯周療法学分野）の大学院に進み、國松和司教授の臨床指導、木村重信教授の研究指導のもと、歯周組織再生をテーマに基礎研究を行いました。

その後も本講座に在籍し、医局長、外来医長、講師、准教授、特任教授を歴任し、その間特に八重柏隆教授には臨床、研究にとどまらず学生教育手法や教室運営のノウハウなど多方面でご指導いただき、深く感謝しております。また学外での活動としましては2013年からはハーバード大学に計3度滞在し、世界最先端の研究、臨床、教育に触れた経験は、今の活動の礎となっています。

歯周病は、歯周組織が破壊され、その結果歯が脱落する慢性疾患ではありますが、全身の健康にも深く関わっており、歯周病原細菌やその産生物は血流を介して全身に広がり、動脈硬化、心筋梗塞、脳梗塞のリスクを高めることが知られています。また、血糖コントロールを悪化させるため糖尿病と相互に影響し合い、妊婦では早産や低出生体重児のリスクを増加させることも報告されています。さらに近年は、関節リウマチや認知症との関連も注目され、口腔の健康管理は「全身の病気を予防する医療」として重要性を増しています。今後は、歯周病の病態解明と再生療法の研究を深化させるとともに、全身疾患との関連性を明らかにし、予防・治療の新たな戦略構築を目指します。「口腔から全身の健康へ」という理念のもと、健康寿命の延伸に貢献する診療と研究を推進し、次世代を担う学生や大学院生の育成にも力を注ぐ所存です。これまでお世話になった恩師や同僚、日々研鑽を共にする仲間への感謝を胸に、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野 教授 今 一裕



この度、2025年4月1日付で岩手医科大学 歯学部 歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野の教授を拝命いたしました今一裕と申します。どうぞよろしくお願いたします。石橋 寛二先生が1980年に歯科補綴学第二講座として開講した本教室は、近藤尚知先生（現 愛知学院大学 教授）が講座再編により引き継がれ、小林琢也先生（現 歯学部長）が歯科補綴学講座として分野の再編を行い、今日にいたっております。非常に歴史の長い、伝統のある教室を担当させていただくこととなり、その責任の大きさに身の引き締まる思いでございます。

私は、青森県五所川原市で育ちました。弘前高等学校では、学園祭の一環で行われるねぶた作りに注力し、また、生物部に所属し、エゾスジグロチョウをはじめとしたチョウの染色体数の計測・同定を、阿部東先生の指導のもと部員一同で行っていました。東京科学大学（旧 東京医科歯科大学）歯学部歯学科に入学し、卒業後は同大学院インプラント・口腔再生医学分野博士課程に入学しました。歯科インプラント治療には、植立される骨量の増生が必要と考え、自家骨を含めた骨移植材料の研究をしておりました。大学院やスイス・ジュネーブ留学での研究、臨床をおこない、帰国後は東京科学大学にて、研鑽を積んでおりました。2022年に近藤尚知先生からお声をかけていただき、本学歯学部 補綴・インプラント学講座の准教授として赴任してまいりました。赴任後は、本学にて教育、臨床、研究に邁進してまいりました。

診療科としては、北東北唯一の歯学部ということもあり、極めて重要な医療拠点であると考えております。特に腫瘍切除および顎骨切除後の再建顎に対する顎義歯や広範囲顎骨支持型補綴装置による治療に力をいれております。腫瘍切除後の顎は一つとして同じ症例はなく、そのため、治療アプローチも多岐にわたります。医局員一同、患者さんのQOLの回復に貢献できますよう日々研鑽に努めております。

岩手県の医療発展に貢献できる教室となれるよう、尽力する所存でございます。地域のみなさまには、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願申し上げます。

血管腫・脈管奇形治療センターのご紹介

血管腫・脈管奇形治療センター長 櫻庭 実
形成外科学講座 教授

● はじめに

従来「血管腫」として一括りに扱われていた疾患群の中には、小範囲の軽度な赤アザから、四肢全体や体幹中心を占める難治性の腫瘍を形成するものまで様々な病態が含まれます。このうち指定難病である難治性血管腫や脈管奇形症候群、また難病に該当しない場合でも治療に難渋する症例については、専門的に取り扱う診療科が少なく、特に北東北では十分に医療の提供ができていない状態でした。このたび岩手医科大学附属病院に「血管腫・脈管奇形」を専門的に受け入れる窓口として、「血管腫・脈管奇形治療センター」を設置する運びとなりました。当センターの設置は、北東北一円の血管腫に悩む患者さんに最先端の医療を提供すること、難治性疾患の研究拠点となることを目的としています。

● 対象疾患

疾患群として下記のような症例を対象に治療に取り組む予定ですが、下記に含まれない場合でもお困りの症例については、ご相談頂ければ幸いです。

クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群（難病）、動静脈奇形（頭蓋外 AVM）、巨大動静脈奇形（難病）、静脈奇形、巨大静脈奇形（難病）、混合型脈管奇形、リンパ管奇形（リンパ管腫）、巨大リンパ管奇形（難病）、リンパ管腫症、ゴーハム病（難病）、青色ゴムまり様母斑症候群（小児慢性特定疾病）、先天性血管腫、乳児血管腫（イチゴ状血管腫）、毛細血管奇形（ポートワイン母斑、単純性血管腫）、血管腫随伴症（血栓性静脈炎、限局性血管内凝固障害（LIC））、など

● 治療内容

外科的切除および再建手術、IVR 塞栓硬化療法、経皮的硬化療法、レーザー治療、薬物療法（mTOR 阻害薬、βブロッカー、漢方薬）など

● 診療体制

血管腫は幅広い年齢層に発症し、部位的にも全身に発生するために様々な診療科を受診することが多い疾患です。十分な医療を提供するためには診療科横断的な連携が必要なため、当センターでは形成外科、放射線診断科、小児科、皮膚科、整形外科、看護部、薬剤部で診療連携体制を確立しています。紹介先の主な窓口は形成外科としておりますが、センター内で診療科連携を行っていますので、従来通り関連診療科にご紹介頂くことも可能ですので、どうぞ宜しくお願い致します。

● 参 考

日本血管腫血管奇形学会 HP



慶応義塾大学病院
血管腫・血管奇形センター HP





岩手医科大学 第4回地域医療連携懇談会

第4回地域医療連携懇談会が 行われました

10月2日、ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WINGにおいて、第4回地域医療連携懇談会が開催され、岩手県内の医療機関から106施設111名、本学からは71名が出席しました。この懇談会は医科・歯科医療機関と一堂に会し、これからの医療連携のあり方、意見交換の機会とすることを目的として開催されました。

第1部講演会では、森野附属病院長、下沖内丸メディカルセンター長、山田歯科医療センター長より矢巾地区への移転・統合について、血管腫・脈管奇形治療センターの新設について加藤副センター長よりご説明させていただきました。また、森野附属病院長による開会の挨拶、小笠原学長による乾杯で第2部懇親会の幕が開き、会場の各所で活発な意見交換が行われ、活気のある懇談会となりました。



「かかりつけ医への紹介（逆紹介）」 ご協力をお願い

現在、国の医療政策においては、大規模医療機関への外来集中による患者待機時間の増加や、医師の負担軽減の観点から、医療機関ごとの機能分担の推進が求められています。そのため、症状が安定した患者さんについては、地域のかかりつけ医・医療機関への「逆紹介」を積極的に進めていく必要があります。

また、2026（令和8）年4月1日より、内丸メディカルセンターの診療機能（総合診療科・リプロダクションセンター・歯科を除く）を矢巾の附属病院へ移転・統合することに伴い、附属病院での外来患者数のさらなる増加が見込まれています。このような背景から、今後の診療体制維持および患者さんの満足度の向上のため、症状が安定した患者さんについては、連携医療機関へご紹介させていただきますので、何卒ご理解とご協力をいただきますよう、宜しくお願いたします。



紹介予約センターへのご紹介方法のご案内

■ FAXによるご紹介

- 1 下記のFAX番号まで 診療申込書をご送信ください。

FAX 019-622-7701

- 2 紹介予約センターより紹介元医療機関様に**予約日時、受診先病院を記載した** FAX 受信確認書および予約票を返信いたします。(返信は診療時間内となります)
- 3 翌診療日までに**紹介状**を紹介予約センターまでご送信ください。(①にて診療申込書と紹介状を送信いただいている場合は不要です。)

■ TELによるご紹介

- 1 下記の医療機関専用の電話番号までご連絡ください。お電話口で医療機関様名、申込診療科、受診希望日時をお話ください。(こちらの番号は紹介予約センターの医療機関様専用ダイヤルです。)

TEL 019-908-9111

- 2 紹介予約センターから、**予約日時、受診先病院をお伝えし**、紹介患者様情報をお聞きします。お電話の後、予約票を送信いたします。
- 3 翌診療日までに**診療申込書、紹介状**を下記 FAX 番号までご送信下さい。

FAX 019-622-7701

■ WEBによるご紹介 ※入院(転院)依頼はFAXもしくはお電話にてお願いいたします。

- 1 専用サイトからログインしてください。
- 2 紹介先の診療科をお選びいただき、候補日時の中からご希望の予約日時をお選びください。最後に紹介患者様の氏名、性別、生年月日、ご連絡先を入力してください。
- 3 ご登録いただいているメールアドレスに**受付内容を記載した**予約票をメール送信します。(自動送信)
- 4 受信したメールを印刷し患者様にお渡しください。
- 5 翌診療日までに**診療申込書、紹介状**を下記 FAX 番号までご送信下さい。

FAX 019-622-7701

※WEB予約システムのご利用を希望される医療機関様は紹介予約センターまでご連絡ください。ご登録方法をご案内いたします。

緊急の診察依頼は365日24時間対応します

地域連携だよりは本号より、年2回(4月、10月)の発行になりました。



岩手医科大学附属病院
患者サポートセンター

地域医療連携だより(岩手医科大学附属病院)10月号

【発行日】2025年10月1日
【発行】岩手医科大学附属病院患者サポートセンター(地域医療連携センター事務室)
〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通2-1-1
TEL: 019-613-7111 (内線4152) FAX: 019-611-8071
【印刷】河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7 TEL 019-623-4256 E-mail: office@kahoku-ipm.jp